

しまねの人

将来切り開く生徒育てる

全国に広がる「教育魅力化プロジェクト」発祥の地として知られる隠岐・中ノ島(海士町)の県立隠岐島前高校が、今年4月から新たに「学校経営補佐官」を設置した。非常勤の1人とともに常勤の補佐官に就任した。5年前に島に移住し、同校の魅力化プロジェクトにコーディネーターとして携わってきた。

「校長などの教職員が2、3年ごとの異動で入れ替わる中で、5年後、10年後の高校の目指すべき姿を伝えていくのが役割だと思っています」

2014年7月、職員として12年勤めた早稲田大学を退職した。移住は同年11月。「移住するために退職したわけではなく、首都圏の子供たちにもふささをつくるような教育関連の起業を考えていました」と言う。起業に備えた視察先の

隠岐島前高校の学校経営補佐官 大野 佳祐さん (39)



隠岐島前高校の学校経営補佐官に就任した大野佳祐さん(海士町の隠岐國学習センター)

一つが海士町だった。

以前からの友人で、10年に来た島前高生のための公立塾「隠岐國学習センター」の豊田庄吾センター長を訪ね、起業の構想を伝えると、移住と魅力化プロジェクト参加を勧められた。その場では断ったものの、9月に再訪した際は、プロジェクトの初代コーディネーターで島の教育魅力化特

命官として松江市への転任が決まっていた岩本悠さんから、後任のコーディネーター就任を求められた。08年に始まったプロジェクトは岩本さんが始めた島留学などが奏功し、島外からも生徒を集めて当初の目標だった全学年2学級化を14年度に達成。廃校の危機をひとまず脱し、さらなる教育内容の充実と今後の

存続を考える段階を迎えていた。「難しさを感じましたが、その分、面白いとも思った」。移住を決め、15年度から本格的にプロジェクトに関わり始めた。特に力を入れてきたのが地域(ローカル)の視点で地球規模(グローバル)の問題を考えられる「グローバル人材」の育成だ。2年生のシンガポール海外研修に加え、16年度からは課外プログラムとしてブータン、ロシア、エストニアへ生徒28人を派遣。さらに、

「島の子ども島外の子も、進学すれば自分たちの将来を切り開けると考える高校にすることが目標。都市部への短期留学や、島の子の一部に寮生活してもらったことも考えています」。補佐官就任1年目の今年は、教職員や地域住民らとの対話を続ける年になりそうだ。

移住翌年に結婚し、昨年8月には長女も誕生した。「どんな子にも、いとおしく祝福されて生まれた瞬間があることが実感できました」。5年目に入った島での暮らしの中で、高校生と一緒に自らも学び続けている。(長田豊)

おおの・けいすけ 1979年、東京都生まれ。中学、高校時代はサッカーに打ち込み、ブラジル留学やインターハイ出場も経験。桜美林大在学中はバングラデシュなどアジア各国を旅した。2002年から早稲田大職員。14年に退職し、海士町へ移住。